慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	巻頭言
Sub Title	
Author	松田, 隆美(Matsuda, Takami)
Publisher	慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究センター
Publication year	2016
Jtitle	慶應義塾大学DMC紀要 (DMC Review Keio University). Vol.3, No.1 (2016. 3) ,p.3- 3
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO32002001-00000003-0003

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

巻頭言

松田 隆美
慶應義塾大学 DMC 研究センター所長　文学部教授

『慶應義塾大学 DMC 紀要』第 3 号をお届けいたします。本号には、2015 年秋の DMC 研究センターシンポジウム「多面的アーカイヴから広がる新しいミュージアム世界－第 4 回 デジタル知の文化的普及と深化に向けて－」における講演やパネル・ディスカッションをはじめとして、この 1 年間の活動報告、所員の研究成果などが掲載されています。DMC 研究センターが創設された目的のひとつに、慶應義塾が所蔵している様々な文化財を対象として新しいミュージアムの可能性を具体的に考えることがあります。DMC の研究の中核をなしている MoSaIC プロジェクトやキャンパス・ミュージアムも、新しいミュージアムのあり方を常に念頭において進められてきました。MoSaIC は、展示を一方的にエンハンスするだけではなく、鑑賞者の視点にたって鑑賞の履歴を共有できるデジタル環境として開発されてきましたし、また、キャンパス・ミュージアムは、大学固有のキャンパス空間が動的ミュージアムとして大きな価値をもつことを示すプロジェクトと言えるでしょう。その研究過程においては、アーカイブ化や展示の対象となる大学固有のコンテンツとは何か、アーカイブおよびライブラリとのシームレスな連携をいかに実現するかなどの課題をめぐってたびたび意見交換がなされてきました。本号には、そうした課題への DMC の理念的、実践的取り組みがパネル・ディスカッションというかたちで収録されています。

デジタル・ヒューマニティーズは人文科学研究のなかでひとつの居場所を得たように見えますが、しかし実際の研究の多くは、既存の課題の解決のための新たな方法論の移入であって、未だに発想の転換や新たな課題発見を誘発するには至っていないのではないでしょうか。DMC では、情報工学、考古学、書物史、博物館学などを専門とする理系、文系双方の研究者が集まって、デジタルとアナログが相互補完的に共存して新たな発想が生まれる場を、さまざまなかたちで作り上げようとしています。『DMC 紀要』も、そうした思索や成果を発信するメディアのひとつとして位置づけられているのです。